2024 年 3 月 3 日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師　乾元美

詩編 51：3～15
マタイによる福音書 18：21～35
「赦され、赦す」
（ハイデルベルク信仰問答　祈りについて　問 126）
※信仰問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 68：20～21
【讃美歌】２５「父、子、聖霊に」
【詩編交読】詩編３２編
【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」
【讃美歌】２８８「恵みにかがやき」
【祈祷】
【聖書】詩編 51：3～15、マタイによる福音書 18：21～35
【説教】「赦され、赦す」
＜日毎のパンの次に求める祈り＞
　主日礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』を元に、「主の祈り」の内容について、一つずつ御言葉に聞き、理解を深めています。
　今日のところは、「主の祈り」の第５の願い、「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。」現代の易しい言葉に直すと、「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。」となります。

　さて、この一つ前の第４の願いは、「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ。」、「わたしたちの日毎の糧を今日もお与えください。」という祈りでした。
　わたしたちは、今日生きるために必要なすべてを、天に父なる神さまに求めます。
　この、日用の糧を願い求めることについては、おそらくわたしたちは、何の躊躇もなく、ためらうことなく、祈ることができるでしょう。
　でも、今日の祈りの部分は、どうでしょうか。「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。」とあります。
　「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく」です。言葉の通りならば、ここは、わたしたちが、自分に罪を犯した者をゆるすように、天の父なる神さま、わたしたちの罪をもゆるしてください、と祈っているように受け取れます。

　これは、わたしたちが人の罪をゆるさなければ、わたしたちは、神さまにゆるしていただくことが出来ない、ということなのでしょうか。

そもそも、わたしたちは、自分に罪を犯す者を、ゆるすことなどできるのでしょうか。
自分を傷つけたり、損害を与えたり、苦しめたりした相手をゆるすこと。それは不可能と言ってもよい、あまりにも困難なことです。
むしろ、わたしたちは、自分に罪を犯した相手に対して、その罪を裁き、罰を受けさせ、償いをしっかりさせたい、と思うのではないでしょうか。それでも、赦せない。赦したくない。あるいは、もはや一切、関わりたくない。相手の存在を無にしたい。
…深く傷つけば傷つくほどに、わたしたちの心には、憎しみや、怒り。また、相手を消し去り、滅ぼしたい、というような暗い思いが、深く根を張り、絡みついてきます。
それなのに、ここでは、「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」と祈るように、教えられているのです。

わたしたちは、この祈りを前にするとき、自分に対する人の罪だけではなく、その人を決して愛することのできない、自分の罪。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」（マタイ 5：44）と言われた、イエスさまの御言葉に従うことの出来ない罪。今なお、神さまの御心に背き、逆らっている、自分自身のどうしようもない罪を、はっきりと見つめさせられます。

ですから、これは、確かに困難な祈りです。わたしたちは、「主の祈り」でも、ここに差し掛かると、何だか声が小さくなってしまう。心からこのことを祈れない、と思ってしまう。人をゆるしていない自分が、「自分が人をゆるすように、神さまがわたしをゆるしてくださるように」と口にすることを、少し躊躇ってしまうのではないでしょうか。

でも実は、このようなわたしたちだからこそ、イエスさまは「主の祈り」で、このことを祈りなさい、と教えてくださったのです。この祈りの言葉を、口移しで教えてくださったのです。
日毎の糧、今日、この命を生きるために、今日食べるもの、今日必要なものを求めた、その次に。わたしたちは「罪のゆるし」を、今日、求めなければならないのです。
このことを、神さまに祈り求めなければ、わたしたちは、神の子として、今日を生きていくことが出来ないのです。

＜赦しの中で＞
さて、しかし。ここで、何よりまず大切なのは、この「主の祈り」は、イエスさまが、弟子たちに教えて下さった祈りである、ということです。
つまり、「主の祈り」は、イエスさまの十字架の血による贖いによって、罪を赦された者たちが、祈るようにと教えていただいた祈り。イエスさまの十字架と復活の救いによって、既に罪から解放されて、天の父なる神の子とされた者たちが、教えられた祈りである、ということです。

そうであるならば、「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」との祈りは、わたしたちが、人の罪を赦すから、天の父なる神さまが、わたしたちの罪をもゆるしてくださる、ということではありません。
わたしが人の罪を赦すことが、神さまに赦していただくための条件ではないのです。

まず、わたしたちは、先に神さまに赦されているのです。すべての人間の罪は、無条件に、一方的に、イエスさまの十字架の血によって、すべて償われました。わたしがなすべき、神さまに対する罪の償いは、すべてイエスさまが代わりに成し遂げてくださいました。そうして、完全な罪の赦しが、わたしたちには与えられているのです。
イエスさまの弟子とは、このことを信じて、洗礼を受け、罪の赦しを神さまから受け取った者たちのことです。神さまの子どもとされて、全能の造り主なる神のことを、「天におられる、わたしたちの父よ」と呼ぶ者たちのことです。
そのような者たちに、イエスさまは、「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」と祈るよう、教えてくださったのです。

＜罪の負債＞
イエスさまの十字架の血によって、わたしの罪は、完全に償われているということ。神さまに、既に罪の赦しをいただいているということ。
これが、わたしたちが、この第５の願いを祈れる根拠であり、前提です。

本当は、わたしたちは、自分が犯した罪を、自分で償わなければなりませんでした。
聖書の中には、罪のことを「負い目」、つまり「負債、借金」と呼んでいるところがあるのですが、それは、罪の性質について、よく表していると思います。
今日の「主の祈り」の第５の願いも、マタイによる福音書の 6：12 に書かれている言葉では、こうなっています。「わたしたちの負い目を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように。」
「負い目」、つまり借金をしたら、それは必ず返さなければなりません。
同じように、誰かに対して罪を犯したなら、それは、自然に消えたり、無くなったりすることはなく、きちんと償わなければならない、ということです。

まず、わたしたちは、造り主である神さまに対して、莫大な「負い目」「借金」を抱える者でした。神さまに、背き、逆らった罪。その愛を蔑ろにして、無視したり、裏切ったりした罪。自分を中心にして、神さまを退け、軽んじ、忘れ去った罪。それは、わたし自身の命をささげても償い切れない、大きな、深刻な、罪だったのです。
もはや、自分では返済不可能な、大きな負債を、わたしたちは神さまに対して、負っていたのです。

でも神さまはそんなわたしたちを、憎んで、怒って、滅ぼそうとはなさいませんでした。

そんな深刻な罪にもかかわらず、神さまは、わたしたちを、なお、愛し続けてくださり、憐れんでくださり、罪を赦そうとしてくださった。そのために、わたしたちの罪の負債を、すべて、ご自分の御子イエスさまに、負わせられることをお決めになったのです。
　わたしたちの罪を償うためには、まことの神の御子が、十字架で苦しみ、血を流し、その命を捨てて下さらなければなりませんでした。わたしたちの罪とは、それほど深刻な、莫大な負債だったのです。

　わたしたち自身は、何を差し出すことも、何をすることも出来ませんでした。わたしたちのすることなど、自分の罪を償うために、何の足しにもなりませんでした。命さえささげても、負債を返すには全く足りませんでした。
　だから、神さまの方が、一方的に、すべての痛手を引き受けて、すべての損失を引き受けて、わたしたちを赦してくださったのです。
　神さまが、わたしたちの罪を赦してくださった、というところには、このような神さまの側の、激しい痛み、大いなる損失、計り知れない犠牲があります。
　しかし、そのような犠牲を払ってでも、御子の命を与えてでも、神さまは、お造りになったわたしたちの罪を赦し、わたしたちを愛し、わたしたちを生かすことを、望んでくださったのです。
　このイエスさまの十字架による罪の赦しを信じ、神さまの御許に帰って来るなら。神さまは誰でも喜んで、すべての人を迎え入れ、罪の赦しを与えてくださいます。
　そうやって、ここにいるわたしたちもまた、差し出された救いを受け取り、洗礼を受け、イエスさまによって完全に罪を赦されたことを、宣言していただいたのです。

＜今日も赦されて＞
　それなのに、わたしたちは、イエスさまの十字架によって、完全に罪を赦されてもなお、罪を繰り返してしまう。神の子とされているのに、父なる神さまの御心に背き、御言葉に逆らってしまうことがあるのです。
　だからこそ、わたしたちは、今日もイエスさまの十字架にあって、わたしの罪を赦してください。今日も、イエスさまの十字架にあって、わたしの汚れを取り去り、新しくしてください。今日も、「わたしたちの罪をおゆるしください」。そう、祈り続けなければならないのです。

　『ハイデルベルク信仰問答』の問 126 の答えの前半は、こうありました。「わたしたちにあらゆる過失、さらに今なおわたしたちに付いてまわる悪を、キリストの血のゆえに、みじめな罪人であるわたしたちに負わせないでください」。
　今なお、わたしたちには、過失も、また意図的な悪も、付いてまわります。罪深いことです。弱く、情けないことです。だから、わたしたちの罪を、「キリストの血のゆえに、みじめな罪人であるわたしたちに負わせないでください」と祈らなければならないのです。

しかし、わたしの罪の負債の帳簿に、さらに罪が書き足されそうになる時。そこには既に、「この者の罪は、キリストがすべて負う」と書き込まれています。わたしたちの罪は、すべて十字架のイエスさまへと、委ねられていきます。

だから、わたしたちは、「今日も、わたしは罪を犯してしまいました。しかし、キリストの血のゆえに、これをわたしの罪としないでください。」「今日も、わたしたちは、罪を犯してしまいました。しかし、この責任を、わたしたちに負わせるのではなく、十字架のイエスさまが負ってください。」そう祈ることが、ゆるされているというのです。

ある人は、これを「虫のいい祈り」だと言いました。罪を犯しておいて、罪を数えないでくださいと。でも、こう祈ってよいと、イエスさまが、教えてくださったのです。

「われらの罪をゆるしたまえ」。

わたしたちは、イエスさまを信じて、洗礼を受けて、罪の赦しにあずかって、清廉潔白な人間になれるのではありません。むしろ、イエスさまの十字架によって罪を赦されたことを知れば知るほど、自分の罪の大きさを、その悲惨さを、ますます知ることになる。そして、赦されて今なお、神さまに背く自分に、どうしようもなく呆れてしまうのです。

そうして、キリスト者として生きる者は、ますます自分の罪深さを思い知らされていきます。でも、その分だけ。いや、それ以上に。そのような、どうしようもない自分の罪をも覆い尽くして下さる、神さまの恵みの大きさ、愛の大きさ、憐みの大きさを、ますます知らされていくのです。

そうして、ますます、神さまとの深い交わりに与っていく。そうして、いよいよ、神さまの罪の赦しと、真実の愛を、深く受け止めていく。

それが、神の子とされた、キリスト者の歩みなのではないでしょうか。

＜隣人を赦すこと＞

…そして、だからこそ、わたしたちは、「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。」と祈ることを教えられるのです。

この、神さまからいただいた罪のゆるしの恵みの中に、本当に自分の実存を置くならば。わたしたちもまた、人をゆるそうとする歩みへと、方向付けられるはずだからです。

問 126 の答えの後半では、「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく」、つまり「わたしたちも人をゆるします」という部分を、こう説明していました。

「わたしたちもまた、あなたの恵みの証をわたしたちの内に見出し、わたしたちの隣人を心から赦そうとかたく決心していますから」。

ここに、「あなたの恵みの証をわたしたちの内に見出し」、とあります。

わたしたちは、神さまの恵みをいただいている事実を、証を、すでに、自分の中に持っているのです。神さまの救いが現実となって、罪の赦しが実現して、わたしたちは今ここに、確かに、神の子として、御前にいるのです。

そんなわたしたちは、人の罪を、まことに裁くことが出来るお方は、神さま、ただお一人であること。そして、人の罪を、まことに赦すことができるお方もまた、御子イエスさまを遣わして下さった父なる神さま、ただお一人であることを知らされています。
それならどうして、そんなわたしが、隣人の罪を、裁いてよいでしょうか。どうして、隣人に自ら罰を与えてよいでしょうか。さらには、どうしてわたしが、隣人に罪の赦しを与えることなどできるでしょうか。わたしたちには、何も出来ないのです。
それなら、わたしたちは、自分に罪を犯した者を、神さまの御手に渡すしかないのです。神さまの御心に委ねるしかないのです。人を裁き、赦すのは、このお方です。

わたしが相手の罪を赦さずに、憎しみや、怒りや、破壊的な思いに捕らわれ続けることを、神さまは望んでおられません。確かに、わたしたちは、人に罪を犯されたなら、どうしようもなく心が、憎しみや怒りに捕らわれてしまいます。
しかし、あなたはすでに、キリストの血によって、罪から完全に解放されているのだから。神さまの愛と赦しを示す、イエスさまの十字架の前に立っているのだから。あなたは、神さまの御心に従って生きなさい。あなたは、罪や、憎しみや、怒りではなく、神さまの愛と赦しの御心を見つめて、生きなさい。そう招かれているのではないでしょうか。

先に「主の祈り」で、「御心がなりますように」と祈ることを教えられたわたしたちです。
神さまの御心とは、イエスさまの救いを信じる者が、罪を赦されて、一人も滅びないで、永遠の命を得ることです。まさに、その御心によって、わたしたちは、神さまに愛され、救われ、罪を赦されたのです。
そして、その神さまの御心は、すべての人に向けられているはずです。イエスさまの十字架の贖いの血は、すべての人のために流されたはずです。わたしの隣人に対しても、わたしに敵対する者に対してもです。
だから、その神さまの御心を思って、あなたも隣人を赦そうとしなさい。赦す者となることを、祈り求めなさい。そう言われているのではないでしょうか。

わたしが、隣人の罪を赦そうと願うことは、神さまの救いの御心がなることを、願うことでもあるでしょう。
もし、わたしたちが、隣人の罪を赦そうとしないなら。それは、イエスさまの十字架の血が、すべての人の、どのような罪をも赦してくださるということを、信じていない、ということになるのではないでしょうか。そして、神さまの御心が、この地になることを、願っていない、ということになるのではないでしょうか。

…しかし、わたしたちが赦せない、と思っている相手のことを、「赦せないけれど、神さまの御心でしたら、赦すことを求めていきたい」。もし、そう祈ることができたなら。わたしたちには、新しい、大きな変化が始まっているのです。
そのとき、相手とわたしとの間には、十字架のイエスさまが、立っていてくださいます。

わたしの罪も、相手の罪も、すべてを担ってくださるイエスさまによって、わたしたちの間にも、赦すことが始まっていくのです。
「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。」
そう祈ることができるのは、わたしたちが、神さまからの救いの恵みを、自分自身の内に、確かに受け取って、御心に従う道を歩み始めている証拠なのです。
これは、恵みの証しです。神さまが、まことに、どのような人の、どのような罪も、愛と憐みによって、赦してくださる。わたしも、そうして赦されている。この確かさにあってこそ、願うことが出来る祈りだからです。

＜仲間を赦さない家来のたとえ＞
さて最後に、今日の第五の願いのことは、今日のマタイによる福音書 18 章のたとえ話が、とてもよく表しています。
ある王さまが、家来に貸した金の決済をしました。そこに 1 万タラントン借金をしている家来がいた。これは、莫大な金額です。簡単に言ってしまうと、1 万タラントは、20 万年分の賃金に相当する額です。ちょっとイメージがつかめないと思いますが、とにかくこれは、誰にも一生返せない金額だ、ということです。
これは、まさに、わたしたちの神さまに対する罪、神さまに対する負債の大きさを現わしています。
こんな借金をした家来に、全部返せと言っても、返せないことは明白です。実際、家来は憐みを乞います。すると、何とこの王さまは、家来を憐れに思って、返せなかった彼を赦し、借金を帳消しにしてくれた、というのです。

これだけ大きな憐みを受けた家来です。しかし、この家来は、その後、自分に 100 デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、返すのを待って欲しいという仲間を一切赦さず、牢に入れてしまいました。
100 デナリオンは、3 か月分の賃金ほどです。家来が赦してもらった 20 万年分の賃金とは、比較にならないほど小さな額です。確かに、それだけ分の損失、痛手があることは間違いありません。でも、この家来は、自分が王さまから受けた憐みの大きさ、赦しの大きさを、まったく受け止めていなかった。王さまが自分のために引き受けてくれた、損失や痛手のことを、何とも思っていなかったのです。
この家来に、王さまは怒って、こう言いました。32 節「不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。」

神さまがまず、わたしたちが決して自分では返すことの出来ない莫大な罪の負債を、ご自身が痛みを負って、御子の十字架の血によって、帳消しにして下さいました。
それゆえに、わたしたちは自分の罪の大きさを知り、恵みの大きさを知り、そのことに深く感謝をしなければなりません。

また、その神さまの、あまりに大きな恵みにお応えしていくこと。神さまの御心に従って、わたしたちもまた、隣人を憐み、赦し、生かす者となりたいのです。
わたしたちが人の罪を赦そうとすることは、確かに、相当な苦痛が伴います。そう簡単に出来ることではありません。
しかし、その困難さを覚えるたびに、わたしたちは、もっと大きな苦しみと痛みによって、わたしの罪を赦してくださった神さまの恵みが、どれほど大きなものだったか。その憐みが、どれほど豊かなものだったかを、改めて思い知り、受け取り直していくのです。

だから、わたしたちは、心から祈り求めていきたいのです。「わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。」
今日も、隣人を愛せない、赦せない、御心に従えないわたしの罪を、イエスさまの十字架のゆえにお赦しください。
そして、わたしたちが、あなたに罪を赦された恵みの大きさを、ますます知り、どのような罪人も、どんな罪も、完全に赦すことがお出来になる、その救いの恵みを、心から信じるようにならせてください。
そして、あなたの御心に従って、わたしたちにも、人を赦そうとする心を与えてください。わたしも、隣人も、十字架のイエスさまが、すべてを担ってくださる、その恵みの確かさの中で。あなたの恵みの証の中で、生きる者としてください。そう祈っていくのです。

【お祈り】天の父なる神さま
わたしたちの罪を、イエスさまの十字架の血によって、完全に赦してくださったことを感謝いたします。これまでのわたしの罪も、今日のわたしの罪も、これから犯してしまうかも知れないわたしの罪も、どうかイエスさまによって、お赦しください。
赦しをいただき、神の子とされた、救いの恵みの中で。日々、罪を赦され、新しくされる中で。わたしたちに罪を犯す者を、わたしたちが、あなたの御手に委ねることができますように。イエスさまの十字架の御前に、わたしも、隣人も、すべての罪人も立たせてくださり、あなたの御心をならせてくださいますように。そして、わたしたちに、隣人を赦そうとする思いを、祈りを、与えてくださいますように。
わたしたちの贖い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】４４５「ゆるしてください」　【信仰告白】ニカイア信条
【聖餐】【讃美歌】７８「わが主よ、ここに集い」
【十戒】【献金】６５－１「今そなえる」
【主の祈り】【祈祷】
【讃美歌】２６「グロリア、グロリア、グロリア」
【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン